

地震時に命を守る避難行動

自分の身は自分で守る

題材のねらい

防災標語を通して、災害時の行動について考え、安全で適切な行動を理解させる。

教科との関連

学校行事（3）健康安全・体育的行事

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入	災害が起こった時の行動について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> どのような行動をとるかを発表させ、その行動を示す標語を提示する。
展開	標語について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 「グラッときたら火の始末」 「あわてて外に飛び出さない」 「身をかかして頭を保護する」 「お・は・し・も」 「窓やとびらを開けて出口の確保」 	<ul style="list-style-type: none"> どのようなことを背景に標語ができたか、資料から考えさせる。（地震後に火災が発生して多くの方がなくなったなど） 現在でもこれらの標語について当てはまるか、資料から考えさせる。 火の始末…無理に行わなくてもよい。避難時に電気のブレーカーを切ることが大切。（A参照） 外に飛び出さない…古い建物でなければ、中にとどまるほうがよい。（B参照） 頭を保護する…本や雑誌でもよいので、頭を守ることは基本。（B参照） おはしも…混乱をおこさないために必要。（C参照） 出口の確保…動けないような強いゆれの場合は、無理をしない。（C参照）
まとめ	津波てんでんこについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 常に防災について情報を確認し、どういう行動をとることが大切か日ごろから考えておくことが大切であることを知らせる。

- A** 火の始末は、揺れがおさまってから確認する。ただし、卓上ガスコンロや古いストーブは、自動消火装置がついていないものがある。「通電火災」を防ぐため、家を離れて避難する前に電気のブレーカーを遮断することを忘れないようにする。
- B** 揺れている最中に移動しようとしてけがをすることが多いので、揺れがおさまるまでその場にとどまるようにする。古い建物は倒壊の恐れがあるため、動けるような揺れの際はすぐに避難することも必要である。
- C** 「おはしも」は、集団で避難する際に、混乱をさけるために必要なことであり、危険を知らせたり、情報を伝達するためにしゃべることを否定するものではない。「出口の確保」は、動けないような大きな揺れの場合、けがの危険があるため、動けるような小さな揺れの場合に行う。

「地震防災研究を踏まえた退避行動等に関する作業部会報告書」（文部科学省）を参考。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/sonota/_icsFiles/afieldfile/2010/06/04/1294461_1.pdf